

---

# 指揮官は臆病者

駄文量産機

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

指揮官は臆病者

### 【Nコード】

N8141Z

### 【作者名】

駄文量産機

### 【あらすじ】

自殺をしてしまった主人公。

死んだあとに何もすることが出来ない空間に閉じ込められるものの、誰なのか全く分からない声が聞こえ、異世界に飛ばされる。

## プロローグ（前書き）

処女作ではないですが小説投稿です。

一応ホラーのジャンルとキーワード入れておきましたが、ホラーな感じにはならないと思います。

あらすじに関しては、今後変えて行く予定です。

## プロローグ

俺は死にたいと思っていた。

だが、いざ死ぬとなると躊躇してしまうものらしい。足がすくんで一歩が踏み出せない。

今更生きていた所でどうにもならないのに何を恐れているのだろうか？

一歩を踏み出すんだ、そうすれば楽に……

自分にそう言い聞かせながら一歩を踏み出す、その瞬間、俺の体は宙に浮き、体が落下し始める。

そのまま俺の体は地面に叩きつけられそうになり、意識が途絶えた。

……ここは、どこなんだろうか？

真っ暗な空間。感覚すらも無く、意識だけが漂い続けている感じた。正直、怖いというよりも不思議な感じた。

何時間経ったのだろうか？もはや時間感覚すらも無い程に時間が経ってしまったのだろう。

ここは恐らくなにも無い空間。飲み食いはおろか痛みを味わう事すらできない本当の地獄なのだろうか？

痛みでもなんでも良いから無じやない空間に行きたい。食べたり、飲んだりしたい。

《あと一日生きていれば良い事もあったのになあ》

誰だ！？この際誰でも良い、ここから出してくれ！頼む！

《分かったよ、今出すけど、後悔しないでね？》

随分あっさりしているんだな……とにかく出してくれるならこの際なんだって良い！

《じゃあ、意識を失うと思うけどあっちでは頑張ってきてね》

そう言われた瞬間、頭を殴られた時のように意識が朦朧としてきた。しかし、朦朧とした意識が戻らないまま、更に意識は朦朧とし、意識を失ってしまった。

## プロローグ（後書き）

読んでくださった方ありがとうございます。  
こんな駄文ですが今後ともよろしくお願い致します。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8141z/>

---

指揮官は臆病者

2011年12月26日00時58分発行